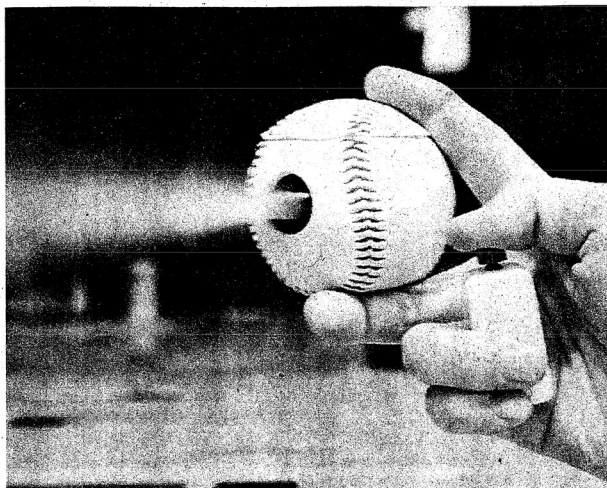


# 「おならボール」最優秀賞

## 飯塚市で「ソレコン」審査会

電磁石で鉄芯を往復運動させる部品「ソレノイド」を使ったコンテスト「第6回ソレコン」の審査会が15日、飯塚市有安の電子部品メーカー「タカハ機工」で開かれた。過去最多の58作品の応募があり、審査員は「高い完成度の作品がそろった。確実にレベルが上がっている」と評価した。

ソレコン大賞を受賞した「おならボール」



## 過去最多58作品「レベル向上」

ソレノイドは自動販売機や車のドアロックなどに幅広く使われているが、一般には知られていない。このため、專業メーカーの同社が知名度アップを図ろうと、2014年からソレコンを実施している。

最優秀賞のソレコン大賞を受賞したのは、東京都の自営業蕪木孝さん(41)が発表した「おならボール」。ボールにはあらかじめガスを注入。リモコンを操作するとソレノイドが動いて、ガスの弁が開き、ボールはガスを出しながら、曲がり、落ちたりする。

蕪木さんは「面白い作品で、世界中の人に喜んでもらいたかった」と振り返り、「ソレコンは面白い取り組み。多くの人が関心を持ってくれたらうれしい」と話した。第1回から審査員を務めている明和電機(東京)

の土佐信道社長は「着眼点が素晴らしい。ユニークだけでなく、技術力も高い」と評価した。

特別賞には九州工業大情報工学部3年兵頭悠生さん(21)の「ゲーセンブレイカー」が選ばれた。ソレノイドを使い、クレールゲーム機のボタンを一定の時間で押すことで賞品を取る作品。兵頭さんは「賞を取れてほっとした。他の作品の

技術は参考になる」と述べた。

タカハ機工の大久保泰輔社長は「ソレノイドが浸透してきたことを実感している。実用化に向けて、アイ

デアを改善していきたい」と力を込めた。各作品は同社のホームページ<http://www.takahaco.jp/>で公開している。

(中川次郎)

2019年2月28日(木)西日本新聞朝刊 筑豊版21面